

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：33606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04304

研究課題名(和文) 認知症高齢者の生活と医療の選択を支える終末期の段階的事前準備の方法の開発

研究課題名(英文) Developing support system for end-of-life discussion with older adults with dementia

研究代表者

島田 千穂 (Shimada, Chiho)

佐久大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：30383110

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)： 認知症の人のエンドオブライフにおける生活と医療の選択に関する意思について、対話を促進するための漸次的、段階的な方法を開発することを目的として、居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーを対象にした調査と、初期認知症の人を対象にしたインタビュー調査を行った。その結果、人生の終盤に向けた対話について、担当する利用者の6割以上と経験があるケアマネジャーは25.7%で、一方、6割以上の利用者家族との対話は、36.2%が実施していた。認知症の人の将来の語りの特徴は、「衰えや死に言及しない将来の物語」と「衰えや死を組み込んだ将来の物語」の大きく2つに分けることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

認知症の人のエンドオブライフケアにおける治療や生活の選択を、日常生活支援の延長線上に位置づけるためには、ケアマネジャーの関与が欠かせない。しかしながらケアマネジャーには最期まで関わることへの不安が大きく、教育の必要性が指摘されている。認知症の人との事前対話の実践には、規範意識との関連が見られたことから、その変容に対する介入の必要性が示唆され、重要な知見と考える。また、認知症の人の将来に関する語りの分析から、自分の人生の最期に向けたプロセスに向き合い、語るができる人がいることをデータで示したことが、重要な知見と言える。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study was to develop a gradual, step-by-step method for facilitating a dialogue about the intentions of people with dementia regarding their end-of-life living and medical choices. Methods included a survey of care managers affiliated with in-home care support offices and interviews with people with early dementia. The results showed that 36.2% of the respondents engaged in end-of-life communication with the user's family members, while 25.7% communicated with the user himself/herself. The characteristics of the future narratives of people with dementia could be divided into two main categories: future narratives that do not mention decline or death, and future narratives that incorporate decline or death.

研究分野：高齢者福祉

キーワード：エンドオブライフケア 選択支援 ケアマネジメント 対話 ライフストーリー

1. 研究開始当初の背景

1) アドバンスケアプランニングの課題

希望に添ったエンドオブライフケアを提供するために、アドバンスケアプランニング(以下、ACP)の必要性が強調されている。ACPとは、将来医療が必要になった時に備えて、医療者や将来代理で決定する人に、自らの価値観や人生の目的を含め、受けたい医療やケアの希望を伝えるプロセスのことである。そのプロセスには、家族や友人など周囲の重要他者との対話や医療者との対話、そして意思を書面に残すことが含まれる。

申請者は、地域診療所に通院する平均73歳の高齢患者114名を対象に、将来のケアの希望を書き残す実践的研究を実施した(中里ら, 2015、島田ら, 2014)。インタビュー調査の結果では、終末期の希望を書き残す必要性は広く同意が得られ、書面化への動機づけとして評価された。一方、不確定で、将来変わる可能性のある意思を書き残すことについての不安が語られた。さらに、家族に迷惑をかけたくないことが強調され、将来、誰に介護を期待するかによって、表明される将来の希望が左右される可能性が語られた(Shimada et al. 2016)。この結果から、将来の介護に関する希望を表明するプロセスには、将来介護を担う可能性のある人との対話を促す働きかけが必要と考える。

2) 認知症高齢者の日常生活支援の延長線上にACPを位置付ける必要性

認知症を有する高齢者にとっては、ACPは特に重要な意味を持つ(栗田, 2016)。認知機能が進行性に低下し、比較的早い段階から自分の意思でケアを決定することが困難になるため、診断後できるだけ早期に、終末期医療の希望を明確化することが求められる。

栗田は、認知症と診断された全ての人を対象に、リンクワーカーによる診断後支援を提供することをめざすスコットランドのシステムを紹介している(栗田, 2016)。これによれば、認知症の支援には、病気や症状との付き合い方について理解できるようにすること、地域とのつながりを支援すること、仲間同士の支援が得られるようにすること、といった現在の生活支援に加えて、将来のケアを計画すること、将来の意思決定のあり方を計画することが含まれている。認知症高齢者の日常生活支援の延長線上に、ACPを位置付ける必要性が示されている。

そのための手法として、ディグニティセラピー(Chochinov HM, et al. 2012、Johnston B, et al. 2015)やreminiscence研究(Woods RT, et al. 2005, 2012, 2016)にみられる「人生を想起し語ること」や、ライフストーリープロジェクト研究(Ingersoll-Dayton, B, et al. 2014、Kindell J, et al. 2014)にみられる、「回想を家族と共有すること」が有用と考える。

3) 認知症高齢者へのACP導入に伴う懸念

根本治療法が開発されていない認知症疾患の告知について、抵抗を覚える医療者も少なくない。認知症を有する不安感は一般の人々に根強く、単なる病名告知ではその不安を一層煽ることにもなりかねない。ACPでも同様に、配慮されずに開始されてしまうと、死を想起させるだけになり、絶望感を生む結果にもなりうる。病名告知のあり方と共に、ACPの開始のタイミングや対話の契機の作り方が課題となる。

近年、希望学という新たな研究領域が生まれている。その中で希望は、先が見えない時に勇気をもって前に進むために必要とされるもの(玄田, 2016)と定義されている。認知症疾患の有無にかかわらず、人は必ず死を迎えるものであり、ACPはそれゆえ誰にも必要とされる。認知症疾患の診断という医学的な文脈に取り込まれた時、その有限性は一段と強調されることになり、先の見えない絶望的な事態に直面することになる。玄田は震災復興プロセスに関する研究結果から、絶望的な状況下では、周囲の人や社会との関係性から希望が生み出され、次の行動がとれるようになると指摘している。

申請者はこれまでの研究成果から、エンドオブライフにおける意思は、介護に関わる家族や周囲の専門職と共に創るものと考えている。意思は、個人の内から生まれ、心理的に内在するかのようによわれがちであるが、周囲の環境との相互作用から生み出されるものとして理解することもできる。ACPのプロセスで、将来の医療やケアの選択について、重要他者との対話を重視する必要性があるのはそのためである。

4) 認知症高齢者の終末期医療の選択を支援する方法

まとめると、認知症高齢者がどのような終末期の生活を送りたいのか、事前に希望を確認する支援では、1)可能な限り早期から、将来の医療やケアの代理選択に関わる家族等との対話を促すこと、2)その対話は、終末期を日常生活の延長線上に位置づけて、長期的なプロセスで進めることが重要である。

2. 研究の目的

認知症の人のエンドオブライフにおける生活と医療の選択に関する意思について、対話を促

進するための漸次的、段階的な方法を開発することを目的とする。

3. 研究の方法

認知症の人は、介護保険サービスの利用者であることが多いことから、エンドオブライフにおける生活と医療の選択に関する意思についての対話を促す役割として、ケアマネジャーに着目し、居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員（以下ケアマネジャー）を対象に調査を行った（研究1）。また、認知症の人本人にとって、エンドオブライフについて語るができるのか、どのように語るのかを確認するため、初期認知症の人を対象にしたインタビュー調査を行った（研究2）。

【研究1】

居宅介護支援事業所 5.612カ所に調査票を郵送し、管理者と最も多くの利用者を担当する所属ケアマネジャー最大3名を対象として自記式調査を実施した。返信用封筒を個別に添付し、回収した。調査内容は、人生の終盤に向けた対話への関与の程度、ケアマネジャーの属性、担当利用者属性（要介護度、独居、訪問診療利用者、認知症利用者など）、ケアマネジャーの介護規範意識である。

【研究2】

認知症疾患医療センター（地域連携型）に定期的に通院する初期認知症を有する患者のうち、主治医がインタビュー可能と判断したMMSE15点以上の人を対象とした。本人と、通院に同行した家族から同意が得られた18名を対象とした。インタビューは半構成的に行い、現在最も大切にしていること、将来の生活展望、人生の最期に大切にしたいことを順に質問した。語りやすさを重視し、理解が難しいと考えられる話題の場合には、より具体的な言葉に言い換えたり、身近な話題を優先するなどの工夫を試みた上で、質問自体が本人のストレスにつながると推察される場合や、言葉や表情から本人が触れたくない話題であると判断した場合には、次の話題に移るように配慮した。

インタビュアーの将来に関する問いに対する参加者の語りを中心にして、その話題に関する対話を分析の単位とした。語りを分断せず、インタビュアーとの対話から生じる参加者個々の一連の語りを分析の単位とした。各参加者の人生における物語性を重視し、将来とエンドオブライフに関する語りに焦点を当てた。

4. 研究成果

【研究1】

人生の終盤に向けた対話へのケアマネジャーの関与には個人差があり、担当する利用者の6割以上と対話経験があるケアマネジャーは、回答者3,320名のうち25.7%であった。一方、6割以上の利用者家族との対話は、36.2%が実施していた。ロジスティック回帰分析の結果、利用者本人との対話は、経験年数に加えてケアマネジャーの介護規範意識と有意に関連し、「家族が看取りにかかわるべき」と考える人ほど本人との対話は少なかった（ $p=0.038$ ）が、利用者家族との対話と介護規範意識とは有意な関連が見られなかった。

人生の終盤に向けた事前の対話は、本人より家族と実施しやすく、本人との対話はケアマネジャーの介護に対する規範意識と関連し、家族との対話はケアマネジメント業務上の必要性に基づく動機で開始されやすい可能性が考えられる。本人との事前対話の推進のためには、規範意識の変容をサポートする介入の必要性が示唆されたと考える。エンドオブライフケアを家族のみの責任としてとらえるのではなく、本人の意思に基づき社会で担うという考え方に基づくことで、事前準備のための対話への関与を高められる可能性があるだろう。本研究は、限られた地域のケアマネジャーを対象とした点で限界があるが、人生の終盤に向けた事前の対話に関与しているケアマネジャーの実態を示した初めてのデータとして価値があると考えられる。

【研究2】

将来の語りの特徴は、「衰えや死に言及しない将来の物語」と「衰えや死を組み込んだ将来の物語」の大きく2つに分けることができた。衰えや死に言及しない将来の物語には、将来は、現在の満足感に焦点化して現状の継続を希望する語りと、将来を達観した語りが見られた。認知症の人のアドバンスケアプランニングにおいては、将来の物語をどう組み立てているかを確認しながら、人生の最後までをどう生きたいかについて語る機会を提供することが重要と考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 25
2. 論文標題 高齢者の治療選択とアドバンス・ケア・プランニングを支える看護師の役割	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年看護学	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 25
2. 論文標題 介護職員が発する「不安を表す言葉」を拾おう	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訪問看護と介護	6. 最初と最後の頁 100-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂、伊東美緒、児玉寛子	4. 巻 67
2. 論文標題 人生の終盤に向かう過程の事前準備支援に関する対話へのケアマネジャーの関与	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 厚生指針	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida Sae, Shimada Chiho, Sakuma Naoko, Kagitani Fusako, Kan Akiko, Awata Shuichi	4. 巻 70
2. 論文標題 The relationship between olfaction and cognitive function in the elderly	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Physiological Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12576-020-00777-8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里和弘, 涌井智子, 児玉寛子, 島田千穂	4. 巻 57
2. 論文標題 終末期における医療者から家族への意思決定支援が遺族の看取りの満足度に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂, 大塚真理子, 高橋在也, 岩城典子	4. 巻 4
2. 論文標題 「大切な人のエンディングストーリーを聞かせてください」の展示まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本エンドオブライフケア学会誌	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 4(4)
2. 論文標題 認知症の人の意思をどう考えるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 53-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 4(5)
2. 論文標題 認知症の人の自律支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 91
2. 論文標題 看取りが不安な介護職員の支え方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 介護付きホームNEWSLETTER	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 67
2. 論文標題 エンドオブライフにおける医療の選択支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医療ソーシャルワーク	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 134
2. 論文標題 認知症高齢者の疾患治療の選択支援を考える (特集: 認知症高齢者の栄養ケア)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床栄養	6. 最初と最後の頁 133-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 24
2. 論文標題 多様な老いと死を考える; アドバンスケアプランニングの進め方の多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 20
2. 論文標題 本人の意思表示における課題と活用できるツール	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 コミュニティケア	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 23
2. 論文標題 認知症の人の将来の治療選択について考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 28
2. 論文標題 地域包括ケアシステムに求められる急性看護とは何か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 142-475
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里和弘、涌井智子、平山亮、島田千穂	4. 巻 55
2. 論文標題 終末期ケアに関する親子間コミュニケーションの関連要因 - 高齢の親を持つ子世代を対象に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 378-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 71
2. 論文標題 終末期ケアの現状	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 健康保険	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 22
2. 論文標題 エンドオブライフの視点からの超高齢者への急性期医療	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 76-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 22
2. 論文標題 療養病棟で最期を看取るといこと	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂	4. 巻 22
2. 論文標題 エンドオブライフケアの視点からみる衰える過程に寄り添う急性期看護とは	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里和弘	4. 巻 22
2. 論文標題 在宅からの終末期の認知症患者の受け入れと家族対応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 54-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平山亮	4. 巻 56
2. 論文標題 息子介護者をどのように見るか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 286-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平山亮	4. 巻 1
2. 論文標題 「名もなき家事」の、その先へ；“気づき・思索し・調整する”労働のジェンダー不均衡	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 けいそうビブリオフィル	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okamura Tsuyoshi, Shimada Chiho, Ito Mio, Ito Kae	4. 巻 21
2. 論文標題 Analysis of challenges faced by care managers in providing end of life care for older people with terminally ill cancer and dementia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 854 ~ 855
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島田千穂、平山亮、中里和弘、伊東美緒	4. 巻 20
2. 論文標題 認知症の人は将来をいかに語るか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知症ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 415-425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅亜希子、島田千穂、伊東美緒、Nick Hird、加藤潤一、鈴木みずえ	4. 巻 14
2. 論文標題 認知症の人とのコミュニケーションを円滑にするための個別の感覚刺激プログラムの活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東美緒、菅亜希子、島田千穂、児玉寛子	4. 巻 6
2. 論文標題 地域で生活する認知症高齢者が混乱する環境要因と対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知症ケア研究誌	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計40件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 島田千穂、伊東美緒、平山亮、中里和弘
2. 発表標題 軽度認知障害のある人が語る将来の希望
3. 学会等名 第21回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東美緒、菅亜希子、児玉寛子、島田千穂
2. 発表標題 地域で生活する認知症高齢者の混乱を誘発する環境要因
3. 学会等名 第21回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田千穂、藤村朗子、伊東美緒
2. 発表標題 超高齢者への治療の選択支援における患者の意思の影響；架空事例への回答の分析
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東美緒、木村陽子、奥田あゆみ、原沢優子、島田千穂
2. 発表標題 認知機能が低下した人の意思を捉え尊重することの難しさ実践
3. 学会等名 日本老年看護学会第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Ikeuchi, Yu Taniguchi, Takumi Abe, Satoshi Seino, Yui Tomine, Chiho Shimada, Akihiko Kitamura, Shoji Shinkai
2. 発表標題 og ownership in the association of social isolation and psychological well-being
3. 学会等名 GSA 2020 annual meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 COVID-19後の施設における看取りケアのあり方
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会非がん疾患のエンドオブライフケアセミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 島田千穂、伊東美緒、平山亮、中里和弘、木下衆
2. 発表標題 認知症高齢者が語る将来
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東美緒、島田千穂、山口晴保、藤生大我、内藤典子、滝口優子
2. 発表標題 「不同意メッセージ」の概念学習とBPSD発現予防シートの開発
3. 学会等名 第20回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂、中里和弘、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、粟田主一
2. 発表標題 人生の最期を考えるワークショップによる終末期準備行動の変化；意思伝達機能低下の将来認識による差異
3. 学会等名 日本老年社会学会第61回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平山 亮、伊東美緒、島田千穂、木下 衆
2. 発表標題 認知症の人の意思を読み解く作法；ケアにおける推測・推察
3. 学会等名 日本老年社会科学会第61回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東美緒、島田千穂、平山亮、中里和弘、木下衆、菊地和則
2. 発表標題 認知機能が低下した患者の意思の表明について考える；現在の困りごとやこれからの生活への希望についての語り
3. 学会等名 日本老年看護学会第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 人生の最終段階における生活を中心とした医療を考える
3. 学会等名 第64回長野県国保地域医療学会（基調講演）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中里和弘、島田千穂、平山亮、杉山美香、伊東美緒、菊地和則、粟田主一
2. 発表標題 高齢者向けの「人生の最期をテーマとしたワークショップ」の評価に関連する要因の検討
3. 学会等名 第一回日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 看取り介護への期待
3. 学会等名 第51回中国地区老人福祉施設研修大会（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 エンドオブライフにおけるケアマネジメントの基盤としての価値
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂、伊東美緒、藤村朗子
2. 発表標題 超高齢者の治療の選択に伴う医療者のジレンマ
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂、原沢優子、伊東美緒、平山亮
2. 発表標題 協働的内省セッションによる特別養護老人ホームでの看取りケアのリーダー実践意識の変化
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊東美緒、島田千穂、藤生大我、山口晴保
2. 発表標題 B P S D (認知症の行動心理症状)の予兆を捉え回避するための“不同意メッセージ”という概念の学習効果
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 介護施設におけるエンドオブライフケア(委員会企画)
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第三回学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiho Shimada, Mio Ito, Hiroko Kodama
2. 発表標題 How can we practice individualized care in end-of-life of people with dementia? (Symposium; A Sustainable Approach to Well-being Centered Care; Integrating Family, Technology and Best Practice)
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mio Ito, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Yuko Harasawa
2. 発表標題 Use of physical restraints for the patients with dementia in acute hospitals in Japan
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Harasawa, Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Mio Ito
2. 発表標題 Where do patients with dementia live after hospitalization in Japan?
3. 学会等名 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田千穂、原沢優子、伊東美緒、平山亮
2. 発表標題 施設介護職の看取りの熟達を支援する目標段階別教育プログラムの開発
3. 学会等名 第26回ヘルスリサーチフォーラム研究成果報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 1.Chiho Shimada, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Kazuhiro Nakazato
2. 発表標題 Information Matters; Adult Children's Attitudes Toward End-of-Life Discussions With Parents in Japan.
3. 学会等名 International Conference on Communication in Healthcare 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiro Nakazato, Chiho Shimada, Tomoko Wakui, Hiroko Kodama
2. 発表標題 The families' verbalizing of gratitude and apology to patients at end of life; a questionnaire survey with bereaved family members
3. 学会等名 International Conference on Communication in Healthcare 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 Quality of dying を考える
3. 学会等名 日本老年社会科学会第60回大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田千穂、伊東美緒
2. 発表標題 地域のケアマネジャーによる人生の最期に向けた事前準備支援の現状
3. 学会等名 日本老年社会科学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊東美緒、木下衆、島田千穂、平山亮
2. 発表標題 認知症高齢者の”選択“を支えるということ
3. 学会等名 第19回日本認知症ケア学会大会自主企画
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimada, C., Hirayama, R., Wakui, T., Ito, M.
2. 発表標題 What Leads Care Managers to Engage in End-of-Life Discussions with Older Clients in Japan? An Examination on the Effect of Clients' Use of Home-Visiting Medical Care Services.
3. 学会等名 13th International Congress of the European Union Geriatric Medicine Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakazato, K., Hirayama, R., Wakui, T., Shimada, C.
2. 発表標題 The Relational Nature of Children's Perceptions of Parental Aging: Findings from a Japanese Sample
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Harasawa, Y., Hirayama, R., Shimada, C., Ito, M
2. 発表標題 Developing expertise in end-of-life care through collaborative reflection; A qualitative inquiry
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shimada, C., Hirayama, R., Nakazato, K., Wakui, T.
2. 発表標題 What Encourages Japanese Adult Children to Initiate End-of-Life Discussion With Aging Parents?
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田千穂、伊東美緒
2. 発表標題 人生最期に向けたケアの選択に関する事前の話し合いに関わるケアマネジャーの特徴
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第一回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中里和弘、島田千穂、舞鶴史絵、水雲京、佐藤眞一
2. 発表標題 在宅の看取りケアにおける意思反映が家族の適応に及ぼす影響
3. 学会等名 第59回日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 涌井智子、中里和弘、児玉寛子、島田千穂
2. 発表標題 看取りを終えたポスト介護者の介護経験汎用に関する研究
3. 学会等名 第59回日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田千穂、菅垂希子、田中志子、宗形初枝、平山亮、伊東美緒、粟田主一
2. 発表標題 認知症の人の行動・心理症状（BPSD）への非薬物対応の実態把握
3. 学会等名 第22回日本認知症ケア学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田千穂、平山亮
2. 発表標題 家族による評価に基づく重度要介護者の経時的状態変化の類型化
3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田千穂、多賀努、松家まゆみ、木田正吾
2. 発表標題 ケアマネジャーのエンドオブライフに向けた対話と看取り実践との関連
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口乃生子、會田みゆき、山岸直子、畔上光代、河村ちひろ、星野純子、浅川泰宏、佐瀬恵理子、島田千穂
2. 発表標題 人生の最終段階に向けた医療・ケアの意志決定に関する住民調査 ～埼玉県A市における横断的調査の結果から～
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 島田千穂
2. 発表標題 高齢者施設における看取りと救急医療の現状と課題
3. 学会等名 第3回日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 島田千穂、伊東美緒、藤村朗子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京都健康長寿医療センター研究所	5. 総ページ数 16
3. 書名 これからの治療選択に迷っている人とその家族の方へ；パンフレット	

1. 著者名 井藤英喜監修、伊東美緒、木村陽子編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 インターメディカ	5. 総ページ数 194
3. 書名 認知症の人の「想い」からつくるケア 急性期病院編	

1. 著者名 井藤英喜監修、伊東美緒編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 インターメディカ	5. 総ページ数 192
3. 書名 認知症の人の「想い」からつくるケア 在宅ケア・介護施設・療養型病院編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------